

# 平成 30 年度 全国学力・学習状況調査 上 富 良 野 町 の 結 果 に つ い て

平成 30 年 10 月 1 日  
上富良野町教育委員会

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象学年 町内小学校第 6 学年、町内中学校第 3 学年 原則として全児童生徒

### 3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li> <li>実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li> <li>様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など</li> </ul>

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査</li> </ul>

4 調査の期日 平成 30 年 4 月 17 日（火）

### 5 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

	上 富 良 野		北 海 道		全 国	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
小学校	3	100	1,012	39,617	19,386	1,030,031
中学校	1	94	590	39,683	95.97	967,196

II 調査の結果（※ 今回の調査で測定できるのは「学力の特定の一部」であり、子どもの学力の全てでないというおさえに立っています。）

#### 1 児童生徒の学力の状況

小学校は、算数Aが全国平均正答率とほぼ同様で、国語Aと理科がやや下回り、国語・算数Bが下回った。昨年度に比べ、国語ABとも全国平均正答率との差が広がっている。

中学校は、国語Aが全国平均正答率をやや下回り、国語Bがほぼ同様。数学A・Bは全国平均正答率を上回っている。理科もやや上回っている。国語Aは、全国平均正答率との差が小さくなり、数学は上回っている数値が大きくなっている。

## (1) 小学校

科 目	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国語A(主として知識)	70.0	70.7	全国平均正答率をやや下回る
国語B(主として活用)	53.0	54.7	全国平均正答率を下回る
算数A(主として知識)	62.0	63.5	全国平均正答率とほぼ同様
算数B(主として活用)	49.0	51.5	全国平均正答率を下回る
理科	59.0	60.3	全国平均正答率を下回る

## (2) 中学校

科 目	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国語A(主として知識)	77.0	76.1	全国平均正答率をやや下回る
国語B(主として活用)	61.0	61.2	全国平均正答率とほぼ同様
数学A(主として知識)	65.0	66.1	全国平均正答率を上回る
数学B(主として活用)	46.0	46.9	全国平均正答率を上回る
理科	67.0	66.1	全国平均正答率をやや上回る

※上記の基準 「上回る」 +3以上 「やや上回る」 +1～+3  
「ほぼ同様」 ±1  
「下回る」 -3以下 「やや下回る」 -1～-3

## 2 児童生徒質問紙の傾向

※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

※  は全国平均より (+5) 以上、 は全国平均より (-5) 以下を表しています。

## (1) 家庭での生活・学習について

小・中学生とも家庭における基本的な生活習慣が身につけている。小学生は、家庭での学習習慣が身に付いている。学習時間については、1時間以上家庭学習を行う児童生徒は全国とほぼ同様の割合となっているが、2時間以上となると15%程度少なくなっている。

小学生は、ゲーム、ネットに費やす時間が多くなっている。中学生は、学校での学習や部活動などが多く、塾や習い事、地域活動への参加が少ない傾向がみられる。

## ○基本的な生活習慣

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
朝食を毎日食べている	93.0	94.5	98.9	91.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	83.0	77.0	89.3	74.2
毎日、同じくらいの時刻に起きている	89.0	88.8	97.9	90.3
家で、計画を立てて勉強している	78.0	67.6	63.4	52.1
家で、宿題をしている	98.0	97.1	98.9	91.6

○平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか？(学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分以下	全くしない
小学校	7.0	10.0	52.0	28.0	3.0	0.0
全 国	12.5	16.8	36.9	23.8	7.4	2.5
中学校	3.2	23.7	34.4	19.4	17.2	2.2
全 国	10.5	25.9	34.2	16.6	7.9	4.9

○放課後に何をしておすることが多いですか？

	家で勉強・読書	放課後クラブ	地域活動	塾	習い事	スポーツ	tv・ゲーム・ネット	家族	友達
小学校	72.0	13.0	6.0	27.0	56.0	53.0	89.0	67.0	78.0
全国	64.1	7.0	6.1	32.2	46.5	47.2	81.0	67.1	74.5
	部活動	勉強・読書	地域活動	塾	習い事	スポーツ	tv・ゲーム・ネット	家族	友達
中学校	92.5	45.2	1.1	19.4	16.1	32.3	76.3	51.6	45.2
全国	82.2	42.2	2.3	42.1	17.7	21.6	77.3	50.2	36.9

○週末に何をしておすることが多いですか？

	学校授業	家勉強・読書	塾	習い事	スポーツ	地域活動	tv・ゲーム・ネット	家族	友達	
小学校	11.0	73.0	6.0	27.0	43.0	5.0	91.0	81.0	76.0	
全国	14.8	58.1	16.1	25.7	43.4	9.0	82.4	80.7	63.6	
	学校授業	部活動	家勉強・読書	塾	習い事	スポーツ	地域活動	tv・ゲーム・ネット	家族	友達
中学校	17.2	87.1	50.5	15.1	5.4	19.4	2.2	80.6	63.4	58.1
全国	11.9	69.4	41.0	23.4	10.1	21.0	4.0	80.1	61.3	56.0

(2) 学校での生活・学習について

「自己肯定感」「自尊感情」「規範意識」「将来に対する希望」など、小・中学生とも大変高くなっている。  
 学習についても、「好き」「分かる」「主体的に学んでいる」と意欲的な回答が多くなっている。

質問事項	小学校	全国	中学校	全国
自分には、よいところがある	89.0	84.0	87.1	78.8
先生は、よいところを認めてくれている	90.0	85.3	88.1	82.2
将来の夢や目標を持っている	83.0	85.1	80.7	72.4
学校のきまり（規則）を守っている	96.0	89.5	100.0	95.1
いじめは、どんな理由があってもいけない	100.0	96.8	100.0	95.5
人の役に立つ人間になりたい	91.0	95.2	100.0	94.9
算数・数学の勉強は好き	71.0	64.0	68.8	53.9
算数・数学の授業の内容はよく分かる	87.0	83.4	83.8	71.0
理科の勉強は好き	93.0	83.5	78.5	62.9
理科の授業の内容はよく分かる	100.0	89.4	87.1	70.0
授業で、課題に対し自ら考え・取り組んだ	86.0	76.7	86.0	73.8
授業で、自分の考えが伝わるよう工夫して発表した	71.0	61.0	55.9	53.8
授業で、話し合う活動を通し、自分の考えを深め広げることができている	88.0	77.7	86.1	76.3

(3) 関心・意欲・態度等について

小・中学生とも地域や社会に対する関心が高い傾向を示している。また、地域行事などへの参加率も高く、実践的行動力が身に付いている。

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
新聞を読んでいる(ほぼ毎日と週1~3回)	16.0	19.9	14.0	13.9
地域行事に参加している	75.0	62.7	53.7	45.6
地域や社会の問題や出来事に関心がある	81.0	63.8	74.2	59.3
地域や社会をよくするために何をすべきか考える	71.0	49.9	57.0	38.7
地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	75.0	62.6	87.1	73.6
地域の大人に勉強やスポーツ、一緒に遊ぶなどがある	59.0	41.6	32.3	25.5

3 学校質問紙の傾向

計画の説明、教育活動への参加、評価の公表など、全国・全道平均を大きく上回り、地域に開かれた学校づくりがコミュニティ・スクールの設置とともに進んでいる。

小学校では、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びを意識した指導に努めている。

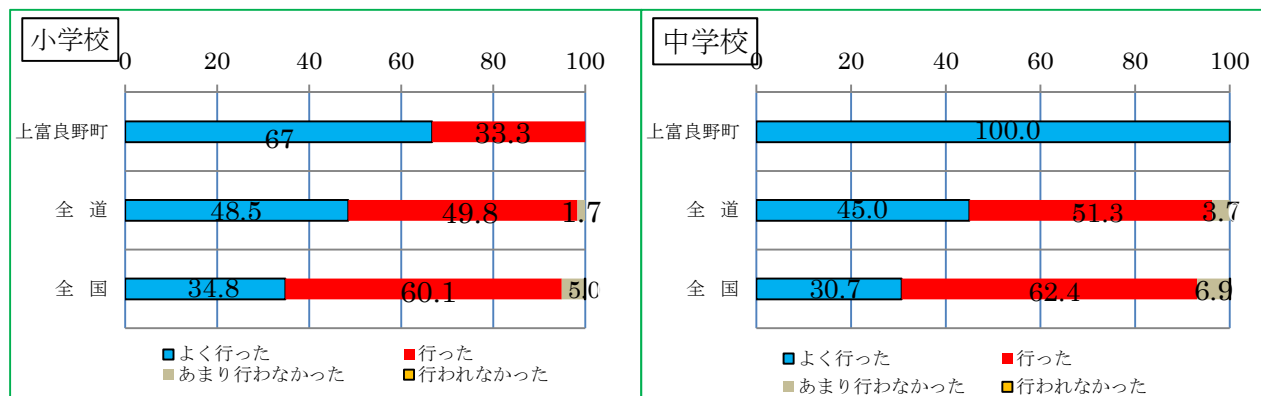
小学校では、算数においては補充的な学習に取り組み、「授業が分かる」と答える児童生徒の増加に努めている。

キャリア教育・共感的な生徒指導(よさや可能性を大切にすること)については、小中が校とも全国・全道平均を大きく上回り、「自己肯定感」「規範意識」「将来に対する希望」が全国・全道平均を大きく上回っていることに繋がっている。

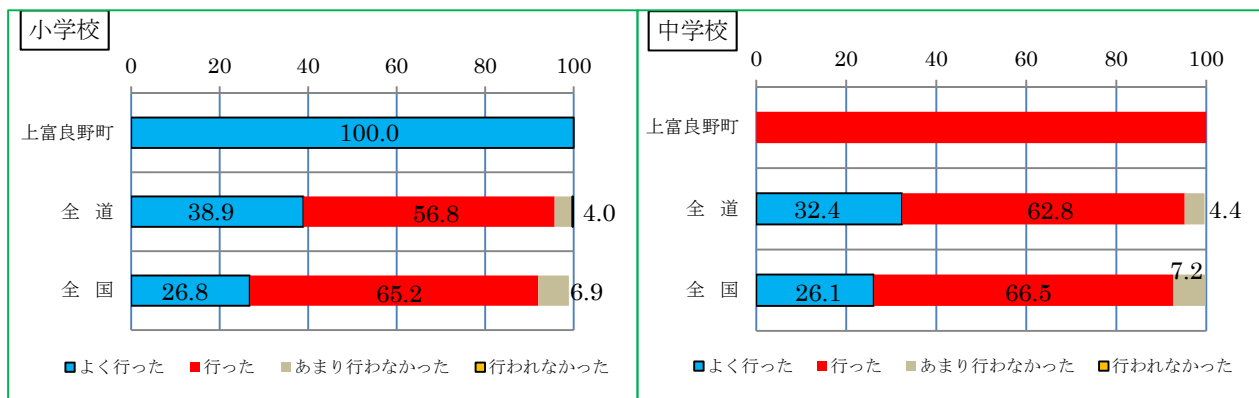
小学校では、ICTの活用を進め全国・全道平均を大きく上回っている。

「地域等の物的資源等の活用や地域の人々に関わる学習」「家庭学習についての指導」「特別支援教育への理解や特性に応じた指導の工夫」は、小学校において全国・全道平均を大きく上回っている。

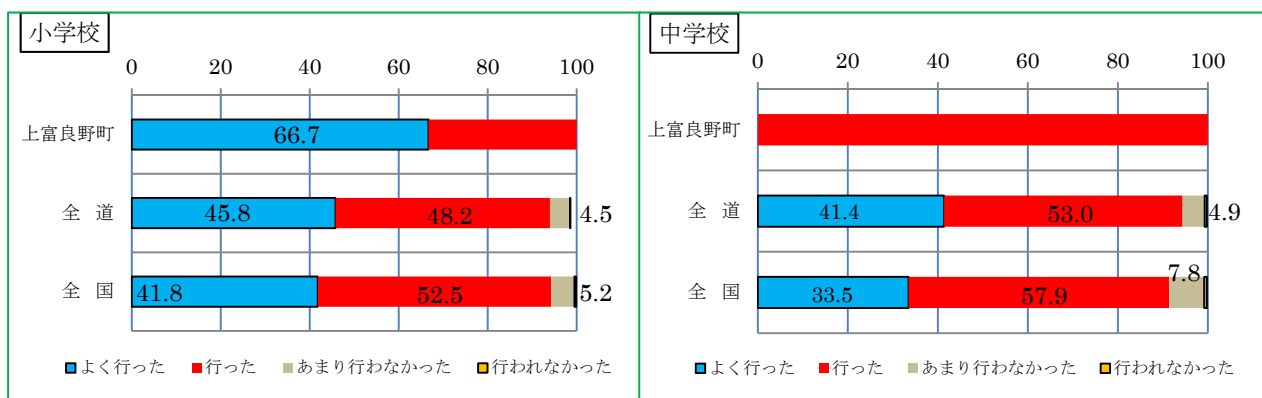
(1) 児童生徒・地域の実態をもとに、教育課程を編成・実施・評価・改善するPDCAサイクルを確立していますか



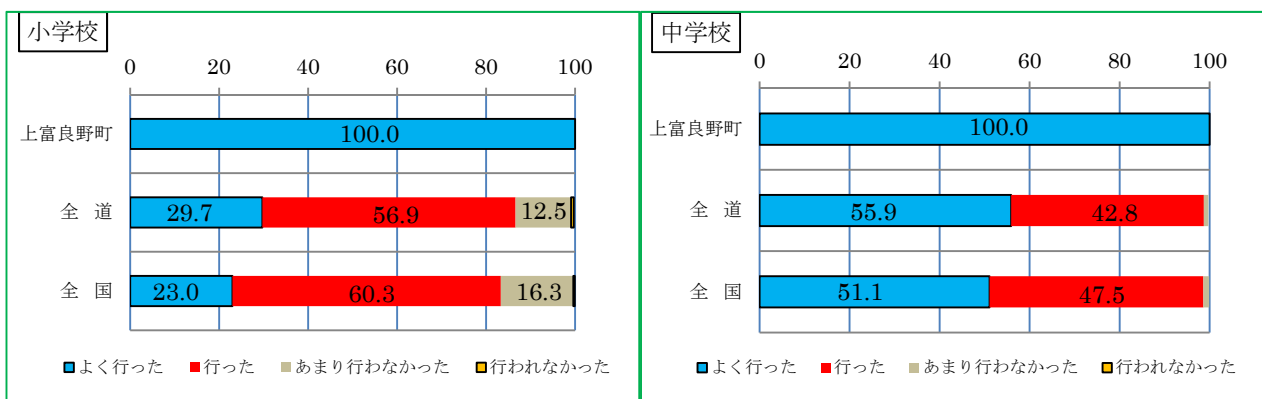
(2) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善・工夫をしましたか



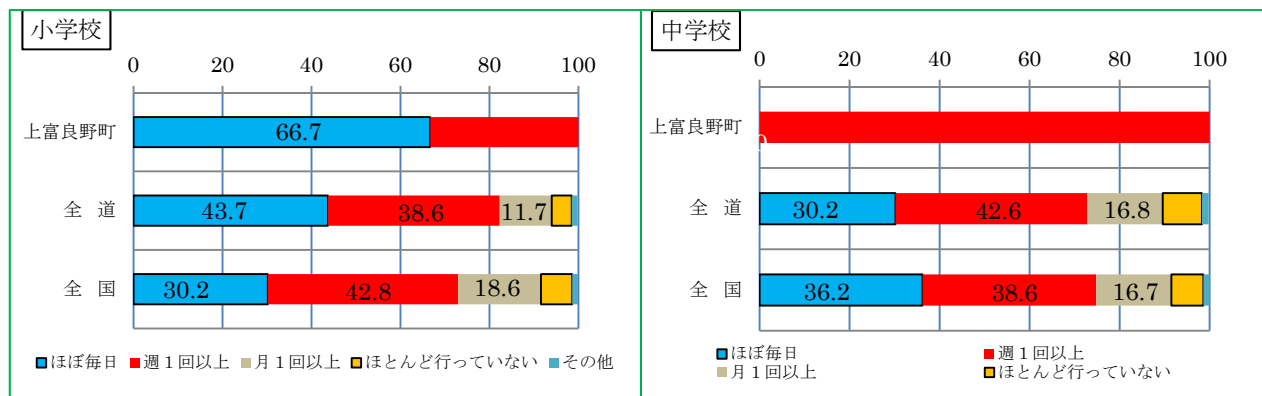
(3) 算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか



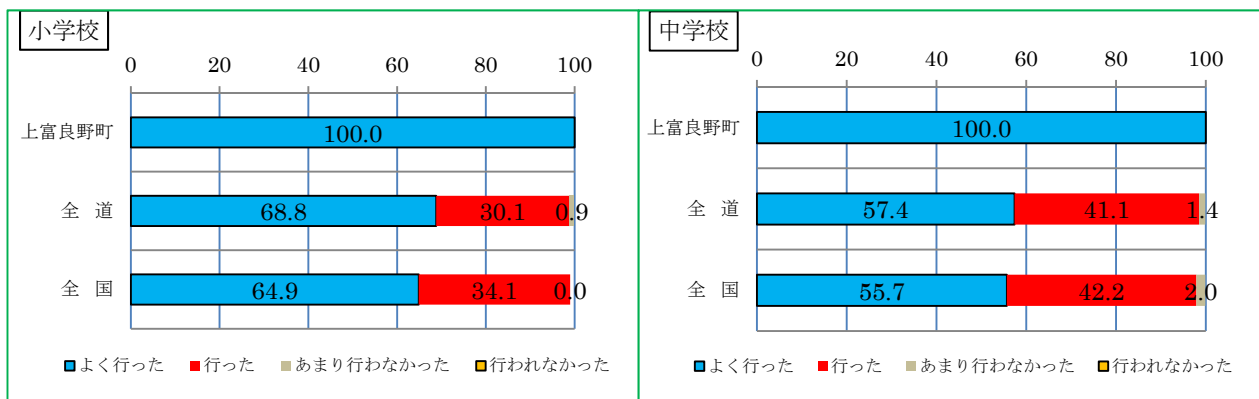
(4) 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



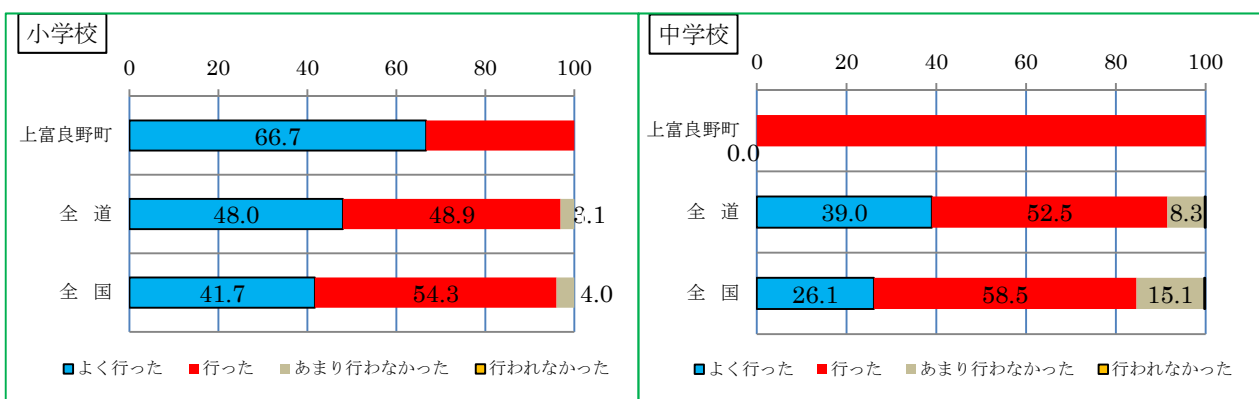
(5) 電子黒板等、ICTを活用する授業をどの程度行いましたか



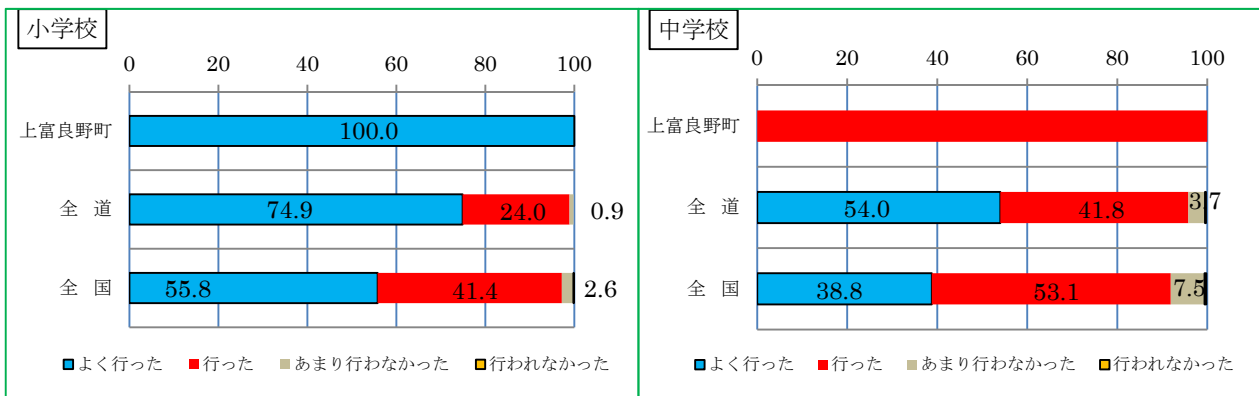
(6) 学校生活の中でよい点や可能性を見つけ評価する(褒める)取組をどの程度行いましたか



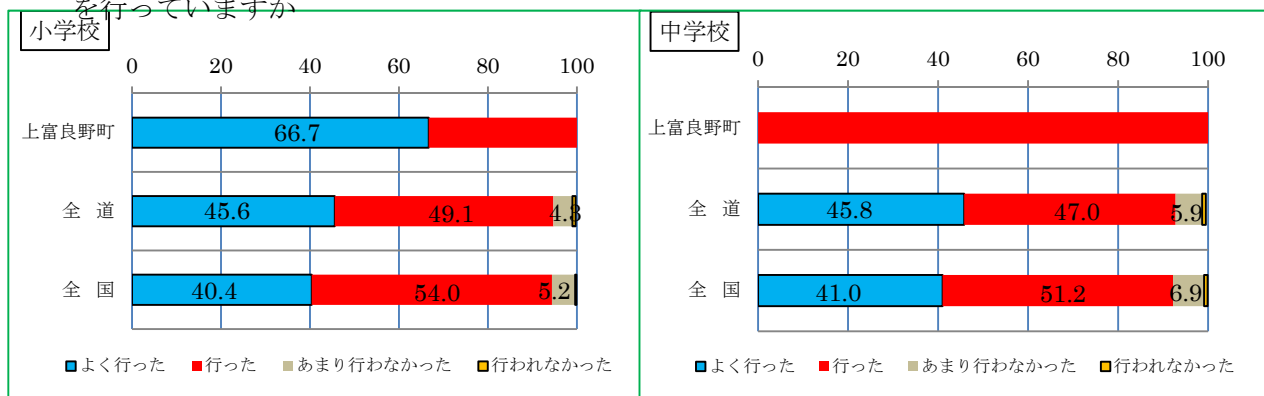
(7) 地域等の人的・物的資源等を活用していますか



(8) 児童生徒に家庭での学習方等について具体例を挙げて教えていますか



(9) 教員は、特別支援教育について理解し、特性に応じた指導の工夫(板書、説明、教材の工夫等)を行っていますか



### Ⅲ 現状と今後の取組

- 1 小学生は、国語 AB・算数 B 問題とも平均正答率が全国平均を下回ったが、算数 A 問題では全国平均とほぼ同様となっている。国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「目的に応じて文をまとめる」が課題となっている。算数は、「量と測定」「図形」「技能」「知識」の定着が図られてきたが、「数量関係」が課題となっている。理科は、3年に1度の実施で全国平均を下回っているが、前々回、前回は大きく上回り、全国平均との差が小さくなっている。

中学校では、国語の平均正答率が全国平均正答率とほぼ同様となり、数学が全国平均を上回った。国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の定着がしっかりと図られ、数学は全体的に学力の向上が図られている。理科も全国平均をやや上回っている。

小学校では上位グループが少なく、学習内容の確実な定着不足がみられる。中学校では下位グループが少なく、学習内容の確実な定着が進んでいる。授業内容の充実、指導方法の工夫改善など「確かな学力育成プラン」を見直し、児童生徒の実態に即した様々な取り組みや小中学校の連携を着実に実施していく必要がある。

- 2 基本的な生活習慣が身についている児童生徒が多い。平日の家庭での学習時間が1時間以内の児童生徒が、小学校では31%（全国33.7%）、中学校では38.8%（29.4%）と、中学校で学習時間が少なくなっている。小学生は、TV・ゲーム・ネットに費やす時間が多く、中学生は、部活動に参加している生徒が多い。

計画的な家庭学習、テレビ視聴やゲーム・スマートフォンの使い方などについて家庭との連携を図ったり、教育委員会で作成している「家庭学習のすすめ」や各学校の「家庭学習の手引き」、「生活リズムチェックシート」を活用した取り組みを計画的に進めたりする必要がある。

- 3 「自己肯定感」「自尊感情」「規範意識」「将来に対する希望」などが高い児童生徒が多い。学習についても、「好き」「分かる」「主体的に学んでいる」など意欲的な回答が多くなっている。

よさや可能性を大切にすると共感的な生徒指導や「学ぶことが楽しい」「将来の夢や目標がある」と児童生徒が実感できる体験的な活動の工夫、部活動についての生徒・保護者・学校の考え方を共有（時間・内容等）していく必要がある。

- 4 地域や社会への関心が高く、ボランティア活動への参加も積極的で、家庭や学校以外へ自ら進んで関わっている。

地域の教育資源を活用した体験的な教育活動の充実や、保護者・住民が学校の教育活動へ参加しやすい学校運営の体制を整え、児童生徒と地域の方々が関わる活動を工夫していく必要がある。